

経営学研究科（博士前期課程）

1. 教育研究上の目的

経営学研究科（博士前期課程）は、経営学の研究を行いうる高度な専門知識を持ち、その知識を必要とする職業分野で活躍できる人材を養成する。

2. 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

経営学研究科（博士前期課程）では、履修規定に即して必要単位を修得し、必要な修業年限を満たした上で、下記の能力を備えていると判断した場合に、「修士（経営学）」の学位を授与します。

（知識・技能）

1. 経営学の研究を行いうる高度な専門知識を持ち、その知識を必要とする職業分野で活躍するための技能を修得している。

（思考・判断・表現）

2. 経営学の専門的な調査研究能力と方法論を身につけ、経営における国内外の課題に対して既存の知的蓄積を踏まえ批判的に検討した上で問題設定を行い、科学的な調査・研究を実施し成果物とすることができる。

（関心・意欲・態度）

3. 自らの学びに責任を持ち、未解決の課題を発見し、経営学の知識を用いて主体的に取り組むことができる。

3. 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

経営学研究科（博士前期課程）では、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げた能力（知識・技能、思考・判断・表現、関心・意欲・態度）を修得させるために、以下のような内容、方法等に基づき、カリキュラムを体系的に編成します。

（教育内容）

1. 経営学における諸専攻分野それぞれの高度で根幹的な知識を修得するため、「主系列科目」を配置する。このための科目は、主に「特殊研究」からなる。
2. 経営学の専門的な調査研究能力と方法論を修得するため、「研究手法科目」を配置する。このための科目は、「特殊研究」及び「データ解析演習」からなる。
3. 経営学における専攻分野に隣接する専門知識を身につけるため、「関連科目」として「特殊研究」及び「文献講読」を配置する。
4. 学生が修士論文の作成について必要な知識や技能を修得できるように、「論文作成関連

科目」として、「演習」及び「研究指導」を配置する。

(教育方法)

1. 講義科目では、高度な知識を修得させることを目的として、講義法を採用する。
2. 演習科目では、学生自身のプレゼンテーション及び論文作成能力を向上させるため、アクティブ・ラーニングを取り入れた演習を採用する。
3. 年度ごとに年度研究計画書の作成を求めるとともに、修士論文等の中間発表を義務づけ、自主的な問題設定に基づく科学的な調査・研究の実施及びとりまとめを援助する。
4. 指導教授を含む指導委員会は、隣接分野を含む幅広い視野を修得することに配慮しつつ、多面的な研究指導及び支援を行う。

(教育評価)

1. 知識・技能の修得に関しては、修士論文又は特定課題研究による研究成果の審査を通じて評価する。なお、その審査にあたっては、別に定める審査基準に基づいて、総合的に判断する。
2. 講義科目において、具体的な問題に関する報告及び討論を行うなかで、論理的かつ科学的な説明を行う能力、十分に根拠づけられた説得的な議論を構築する能力、及び他者との議論の中で妥当な結論を導いていく能力を測る。
3. 演習科目において、自らの知識と思考を用いて具体的な問題を検討し、解決しようとする姿勢と能力を測る。そして、修士論文又は特定課題研究の審査を通じて、より専門的な学問的能力についての評価を行う。

4. 入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

経営学研究科（博士前期課程）では、次に掲げる知識・能力や目的意識・意欲を備えた学生を、各種選抜試験を通じて受け入れます。

(知識・技能)

1. 経営学について学部の専門科目以上の知識を有しており、その内容を的確に説明できる。

(思考・判断・表現)

2. 与えられた情報から問題の構造を発見・理解することができ、解決に必要な問題を特定し表現することができる。

(関心・意欲・態度)

3. 経営学について深い関心を持ち、学部段階よりも一層進んだ専門的知識と研究手法を身につけていく意欲を持っている。

以上